

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ファイナンシャル・プランニングⅢ Financial PlanningⅢ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
法学、民放Ⅰ、不動産関係法、税法Ⅰ、金融と証券、社会保障Ⅰ、Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
担当に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
水谷 恒夫	非常勤講師室	出講日		授業中に指示します
授業の概要				
ファイナンシャル・プランニングⅡまでに学んだ知識を基とし、個人の家庭のライフプランをベースに、貯蓄や投資、保険、年金、不動産、税金、相続などを包括的にアドバイスする専門家＝ファイナンシャルプランナーの育成を目指す。専門家として必須の資格であるFP技能士2級検定試験の合格を目指す。				
授業の目標				
【1】①ライフプランニングと資金計画 ②リスク管理と保険 ③金融資産運用設計 ④タックスプランニング ⑤不動産運用設計 ⑥相続・事業承継設計の6分野について説明、アドバイスができるようにする。【2】国家資格であるFP技能士2級検定試験の学科試験と実技試験の両方に合格できるようにする。【3】2級技能士試験検定試験は平成29年9月試験もしくは平成30年1月試験での学科試験、実技試験の両方に合格できるようにする。				
授業の方法				
【1】講義および発表形式によって、FP3級の知識を習得していることを前提に授業を進める。また、過去問題集を使用し、実際の問題演習もカリキュラムに取り入れる。【2】15回の授業スケジュールは下記のとおりであるが、進行が早く進んだ場合は残りの授業を問題演習を中心とした授業に切り替える場合もある。				
学習の成果(学習成果)				
【1】試験の合格によって国家資格を取得し、就職、面接にアピールできる。【2】幅広いFPの知識を修得することによって、アドバイザーとしてのスキルを修得し、実務に役立てることができる。【3】身近な家計を考える際にも、FPの知識をベースに生活設計を行うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ライフプランニングと資金計画(1):ファイナンシャルプランニングと関連法規・社会保険			
第2回目	ライフプランニングと資金計画(2):公的年金・企業年金			
第3回目	ライフプランニングと資金計画(3):ライフプラン策定上の資金計画			
第4回目	リスク管理と保険(1):保険制度全般・生命保険			
第5回目	リスク管理と保険(2):損害保険・小テスト実施			
第6回目	金融資産運用(1):預貯金・投資信託			

第7回目	金融資産運用（2）債券投資・株式投資
第8回目	金融資産運用（3）：外貨建商品・関連法規
第9回目	タックスプランニング（1）：所得税の仕組み、損益通算、所得控除、税額控除
第10回目	タックスプランニング（2）：個人税・法人税・消費税・小テスト実施
第11回目	不動産運用設計（1）：不動産の見方・取引・法令
第12回目	不動産運用設計（2）：不動産の税金・有効活用
第13回目	相続（1）：贈与と相続
第14回目	相続（2）：相続財産の評価・事業承継対策
第15回目	6科目のまとめ

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	※0%	（注）著しく授業参加態度が不適切な場合は、10点の範囲内で成績を減点する可能性がある。減点事項としては、①遅刻、早退 ②授業中の居眠り、私語 ③その他受講態度として不適切とみなされるもの。である。
レポート		
調査報告書		
小テスト	50%	5回目と10回目をめどに、小テストを実施する。正答率に50%のウェイトを乗じ成績に反映する。
試験	50%	16回目の終講試験の正答率に50%のウェイトを乗じ、成績に反映する。
発表内容（態度含む）	※0%	授業中にテキストの内容、授業の内容について質問をする場合がある。
その他		

教科書と参考図書

①FP技能士2級・AFP 最速合格ブック ②FP技能士2級・AFP 重要過去問スピード攻略（試験直前対策としてもう1冊追加の可能性あり）

履修上の留意点・ルール

テキスト・問題集・電卓（携帯やスマホに内蔵されているものは不可）・ノートを持参すること。重要な論点は板書するので、ノートに記入すること。